

CSR経営の成果

豊かな環境づくり

豊かな地球環境を次世代に残すため、低炭素社会・循環型社会の実現を積極的に推進します。また、自然共生社会の実現に向けて、生物多様性を保全、回復し創造する活動を展開します。

方針・アプローチ

当社は安藤ハザマ環境方針を制定し、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を実現するために、環境重視経営を加速させています。2018年4月、取り組みをさらに加速するため、同方針を改定。その定量・定性目標である環境目標の確実な実践を推進しています。

環境方針

豊かな青い地球を守り、サステナブルな社会を実現するため、グループをあげて「環境保全」と「環境負荷低減」に貢献する。

1. 低炭素社会の実現に向けて、温室効果ガスの排出量削減に取り組む。
2. 循環型社会の実現に向けて、建設副産物の削減を推進する。
3. 自然共生社会の実現に向けて、生物多様性を保全、回復し、創出する活動を展開する。
4. 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保全の成果を高める。

もっと知りたい方へ

安藤ハザマの環境パフォーマンスの詳細は「環境データ集」として取りまとめ、「CSR情報」サイトに掲載しています。併せてご覧ください。  
「CSR情報」サイト：<http://www.ad-hzm.co.jp/csr/>



取り組みの柱

1. 環境負荷・環境リスクの低減
2. 生物多様性への取り組み

環境重点取組

「環境方針」を具現化した中長期の実施項目として「環境重点取組」を定めています。

1. 地球温暖化に関する取組
  - 温室効果ガス排出量の削減と省エネルギー化の推進
2. 生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組
  - 生物資源や生態系に与えるリスクを考え、その影響を最小限にする
3. 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組
  - 建設廃棄物のゼロエミッション化
  - 建造物の長寿命化、環境配慮型社会の構築
4. 水環境保全に関する取組
  - 地域の特性や生物多様性の保全を念頭に、良好な水環境の保全に取り組む
5. 大気環境保全に関する取組
  - 大気汚染やアスベスト等に対する取組の強化
  - 騒音、振動等、生活環境問題に対する取組の強化
6. 包括的な化学物質対策の確立と推進のための取組
  - 化学物質による環境リスクの理解増進とリスク低減に向け取り組みの推進

OUR ACHIEVEMENTS

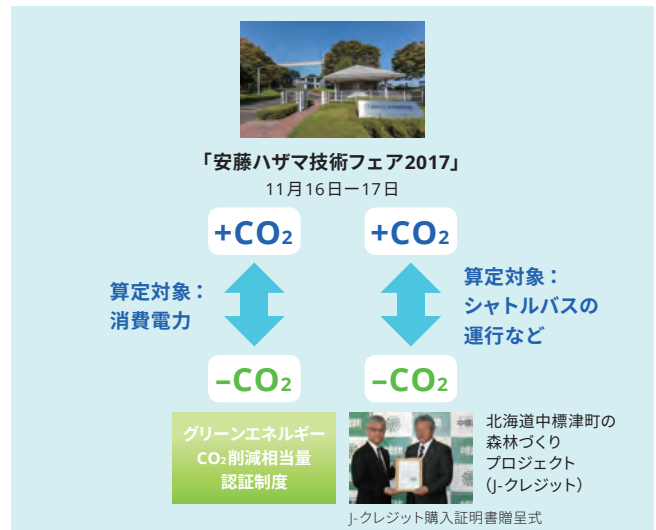
取り組みの柱：1. 環境負荷・環境リスクの低減

「安藤ハザマ技術フェア2017」でカーボン・オフセットを実施

カーボン・オフセットは、自らの努力では削減しきれないCO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量をほかの場所での削減・吸収により埋め合わせ、社会全体として温室効果ガスを減らす取り組みです。2017年11月に開催した「安藤ハザマ技術フェア2017」では、「グリーンエネルギーCO<sub>2</sub>削減相当量認証制度」\*1や「J-クレジット制度」\*2を活用して、電力消費やシャトルバス運行などで発生した6tのCO<sub>2</sub>のカーボン・オフセットを実施しました。また、2016年度のカーボンクレジットの保有状況について、安藤ハザマ「環境データ集2017」に掲載しました。

\*1 グリーン電力証書のCO<sub>2</sub>排出削減価値を国が認証し、排出削減量として活用する制度  
\*2 温室効果ガスの削減・吸収量をクレジット(証書)として国が認証する制度

技術フェアでのカーボン・オフセットの概要



# 2017年度 主な活動

取り組みの柱：1. 環境負荷・環境リスクの低減

## 建築物の温室効果ガス排出量の削減に向けたカーボンフットプリントの活用推進

建築物のライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの削減にあたり、効果的な対策を推進するためには、建築物の新築・改修・解体時の温室効果ガス排出量を、サプライチェーンを含めた各段階で定量的に把握することが重要になります。当社は、国際規格に基づき客観性・信頼性・透明性が確保された制度であるカーボンフットプリント(CFP)を活用した温室効果ガス排出量の評価手法を自社の建築物へ適用し、国内初となる実建築物でのCFP認証を取得しています。この実証を経て、お客様へ提供する建築物への適用も開始しており、温室効果ガスの削減が期待できる材料や工法を積極的に組み込んだ環境配慮型設計を推進しています。

低炭素型コンクリート (LHC®) を採用  
202t 減

内外装材の長寿命化  
364t 減

影響が大きい項目から効果的に削減!

床面積1m<sup>2</sup>・耐用年数65年あたり  
1.5t CO<sub>2</sub>

http://www.cfp-japan.jp  
CFP-PCR番号 CR-DX01-14001

CFPを活用した環境配慮型設計提案の例 (TTCつくば)

取り組みの柱：1. 環境負荷・環境リスクの低減

## LHC® (ローカーボンハイパフォーマンスコンクリート)の積極提案

当社が開発した低炭素型コンクリートLHC®は、汎用品であるJIS製品、普通ポルトランドセメント(N)、高炉セメントB種(BB)およびフライアッシュ(FA)を最適なブレンド比で使用することで、一般的な構造物に使用可能な力学性能、耐久性、施工性能を有しています。LHC®は、Nのみのコンクリートに比べて材料のCO<sub>2</sub>排出量を45%削減するほか、①コンクリート硬化時の温度上昇量低減による温度ひび割れの抑制、②NあるいはBBのみを用いたコンクリートより、優れた収縮ひび割れの抑制性能、③材齢91日を超える長期強度の増進、④流動性およびポンプ圧送性の改善といった特長があります。これまでに、約1,500m<sup>3</sup>のLHC®を土木工事3件、建築工事1件に適用しました。



取り組みの柱：2. 生物多様性への取り組み

## 生物多様性保全関連ツール「いきものプラス®」、「いきものインフォ」の機能向上

当社は建物緑化の設計支援ツール「いきものプラス®」において緑の量(緑化面積)や緑の質(在来種植栽など)を評価するアルゴリズムを刷新しました。これにより緑化面積が狭い場合でも、CASBEE®評価点の向上を図ることができ、生物多様性に配慮した現実的な緑化計画が可能となりました。

また、生物多様性取り組み事例や関連資料などからなる当社専用のデータベース「いきものインフォ」および「いきものプラス®」に共通して利用する「潜在自然植生MAP」の対象範囲を、これまでの都市部から山間地にまで拡大しました。これにより全国各地域の生物多様性の保全に適した土木・建築の緑化植栽植物の検索が容易にできます。

「潜在自然植生MAP」を全国に拡大

